

新年度予算にみる 勝山市の動きを チェック!



平成23年度の予算について、市議会ではどんな審議がされているのか。特徴的な内容を「特集」しました。

特集 1 災害について

▼東日本大震災の災害復興支援について

3月11日に発生した東日本大震災の犠牲になられた方々と被災された皆様にご心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

議会では、被災地に義援金を送ると共に、勝山市としてできる限りの支援活動を要請しました。

市は、消防署員の派遣や支援物資の陸送を行い、避難を希望する方々に市営住宅を提供するなどの準備を整え相談窓口を設置しています。



▼雪害対策について

今年の2月に市街地の最深積雪量が2m10cmに達し、死者1名、負傷者9名、家屋被害は全壊6棟、半壊7棟、一部損壊195棟など大きな被害が発生しました。

①災害見舞金制度の見直し

議会では災害見舞金支給規則を見直すことが提案され、規則を改正して住宅被害への見舞金を増額し、新たに人的被害にも見舞金を支給することになりました。

②住宅リフォーム助成

議会では、福井県のリフォーム補助に勝山市独自の補助が上乗せされる住宅リフォーム助成制度を、雪害も対象にすることが提案され、4月1日以降に申請して着工する場合には対象となりました。

また屋根融雪の設置補助事業については県の補助の復活を求めるべきとの意見が出されました。

③雪下ろし支援事業

市民税非課税世帯で市内に子や親族が居住していない高齢者世帯等には1回7000円の雪下ろし支援金が助成され、今年は例年の2倍の回数まで対象になりました。

ただ、7000円の助成金だけでは雪下ろしを依頼できず、高齢者が自ら雪下ろしをする事例があり危険なことから、議会では事故防止のために制度を見直すことが提案され、助成額や助成方法等について検討されることになりました。

④道路除雪等について

議会でも改善を求め続けた狹隘道路の対策について、市では小型除雪車や消雪装置の設置を進めてきました。

新年度も引き続き消雪装置の強化を図る予算が計上され、その設置要件に対して意見がありました。

特集 2 関西学院大学との連携強化

関西学院大学とは平成21年から包括的連携協定を締結しており、今年度も引き続きインターシップの学生を受け入れて勝山市ならではの就業体験の場を提供します。

また、総合行政審議会委員に専門教授等の参画、大学構内でかつやまPR展の開催などが予定されています。

その他、学生合宿等で勝山市を訪れる運動部員と市民の交流や市内での文化サークルの活動等を支援します。

新規事業では大学の専門教授等を講師として、市民を対象に関西学院大学勝山セミナー（仮称）を開催するほか、関西学院大学の吹奏楽部のコンサートも予定されています。

議会では、関西学院大学と今まで以上に連携強化を図り、単なる学生・講師等との交流にとどまらず、勝山市を対象に幸福度調査・人口動態調査等の社会的なフィールドワークを含めた研究を進め、その調査手法、研究結果等を勝山市政に生かすことが重要であるとの意見が出されました。